

令和4年度 学校経営方針

I 教育目標と目指す学校像

学びを高める子ども —喜んで登校し、楽しく学べる見附第二小学校—

II 年度重点目標

自分のよさを見出し、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成 ～学び、かかわり、ふりかえり&未来デザインを中核に～

III 学校経営方針

1 子どもが通ってよかったと思える学校 —地域の教育資源、小規模校のよさを生かす—

見附第二小学校は、豊かな自然や少人数のよさを生かす教育に伝統的に取り組んできた。こうした伝統を継承しつつ、現在の子どもの実態を見つめ、当該年度の重点を設定し、子どもの力を育んでいく。

令和4年度の重点は3年度に引き続き、「自分のよさを見出し、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成」とする。そして、3年度の成果を基盤に、地域の教育資源、小規模校のよさ・強み、職員全員で全児童を育てる構えを大切に、児童が、学習、適切な人間関係づくり、キャリアカウンセリングを通して、自らの学校生活を、自身の手でよりよいものにしていく姿を具現化する。そのために、次の取組を行う。

(1) 確かな学力 ～基礎基本を身につけ、深く考える子どもの育成～

ア 基礎基本の定着を図る取組

(ア) 家庭学習の活性化

- 「杉の子家庭学習ナビ」の活用
- 家庭学習プランニングの実施

(イ) 基礎基本定着の確認と徹底

- 漢字・計算タイムの内容・方法の工夫・改善

イ 主体的な学びをつくる取組

(ア) 授業改善

- 考えをもつ場面と交流する場面での手立ての工夫
- 総合的な学習の時間指導計画「杉の子プラン」に準じた指導

(イ) 学び方の習得

- 「杉の子できる・わかるナビ」を活用した指導の実施

(2) 豊かな心 ～自他を大切にのびのびと生活する子どもの育成～

ア 社会性を育む取組

(ア) 体験活動とリンクさせた指導

- 豊かな体験活動の創出
 - 総合的な学習の時間指導計画「杉の子プラン」の活用
 - 地域と協働する活動の実施
 - 異年齢集団活動の充実
- 体験活動事前・事後学習の充実(めあて立て&ふりかえりの実施)
- キャリア・パスポートの活用とキャリア相談の実施
- 道徳科授業の充実-体験活動と関連付けた指導の実施
- 子どものアイデアを生かす特別活動の実施

(3) 健やかな心身 ～自分の健康・元気を自分でつくる子どもの育成～

ア 望ましい生活習慣・食習慣を育む取組

(ア) メディア・コントロール力の育成

- 教科等での学習指導と個別の保健指導の実施
- 生活ふりかえりカードの活用
- 生活習慣強調期間の設定
- メディア・ストップ力の育成ー子どもが自力で使用を止められるための PTA との協働

イ 体力向上の取組

(ア) 体育授業、業間運動の工夫

- 体育授業中の活動の工夫
- 持久力、スピード、筋パワーの向上に焦点を当てた、業間運動（杉の子タイム）の内容と方法の工夫

2 保護者が通わせてよかったと思える学校 ー「共育」(共に子どもを育てる)でー

わが子が力を付け、成長していく。それが保護者の喜びである。教育活動を充実させ、さらに、学校と保護者との信頼関係を築けるように、「共育」ー保護者と共に子どもを育てるー姿勢を基本に次の取組を行う。

(1) 子どもにかける願いの共有

面談等を通して、「こんな子どもに育ってほしい」という子どもにかける願いを学校と保護者とで共有し、教育・子育てに取り組んでいく

(2) 緊密な情報交換

学校生活において、子どもをとらえるアンテナを高くし、電話、家庭訪問等により、学校での事実を迅速、確実に伝える。また、家庭での事実についても提供してもらう。

(3) 保護者の声への傾聴

保護者からの学校への期待や要望等をしっかり受け止め、教育活動改善の視点とする。

3 地域が協力してよかったと思える学校 ー「共創郷育」で協働してー

見附第二小学校は、学校運営協議会、地域学校協働本部、PTA等、地域諸団体と協働で教育活動を進めてきた。こうした活動を維持・充実させ、地域と学校が共に元気になるように、次の取組を行う。

(1) 育みたい資質・能力の共有

学校と関係諸団体とで、協働して行う諸活動を通して子どもに育みたい資質・能力を共有する。その上で、取組の中での子どもへの接し方を工夫する。

(2) 地域に貢献する教育活動

子どもが、地域を舞台に、地域の人と、地域のことを学ぶ教育活動に、地域に支えてもらうだけでなく、地域に貢献する活動を取り入れていく。このことにより、自己有用感や郷土愛を育んでいく。

(3) 教職員一人一人が学校の顔

管理職だけでなく、地域に関わる各活動を担当する教職員一人一人が、地域との接点であり、学校の顔である。その自覚をもって地域の方と接する。

4 教職員が勤めてよかったと思える学校 –第二小「One Team」で–

教職員として見附第二小学校でやりたいこと、身につけたい資質・能力をもち、個々のワーク・ライフ・バランスを整えながら勤務することができるようにする。教職員がはつらつと働き、子どもがいきいきと学ぶ学校づくりに向け、次の取組を行う。

(1) 子どもを深く知る–児童理解力の向上

子ども一人一人をじっくり丁寧に見て、ひとつひとつの姿（点）をつないで子どもを深く知るように心がける。子どもを見る目を養う努力をする。

(2) 授業力の向上(研修の日常化)

子ども目線で教材研究、授業準備をして授業に臨む。学習内容と本時のめあて（今日は何をするのか）を明確にもって教室へ向かう。

(3) 同僚との対話–学び合い&チーム協働

教務室での同僚との対話を大切にする。子どもや教育活動について、語り合い、考え方の違いを受け止め、そこから学ぶようにする。学び合いとチーム協働で子どもを育てる。

(4) 働き方改革の推進–ワーク・ライフ・バランスの意識とタイムマネジメント力の向上

子どもにとって最大の教育環境は教師である。明るく元気で、自らも学ぼうとする教師の姿は子どもの活力を増幅させる。仕事と生活の調和を図り、私生活を楽しむことは生きがい・喜びを増し、教職員としての魅力を高め、豊かな教職生活をつくることにつながる。教職員一人一人が自身のタイムマネジメント力を高め、教職員がはつらつと働き、子どもがいきいきと学ぶ学校をつくる。